

社会保障領域のインフルエンサーを目指す医療法人東西会グループ

連載

134

在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック理事長
橋本 満義 (71歳・内科)

在宅医療介護にも迫りくる危機



患者さん宅へ押し寄せるコロナ禍は、悪化の一途をたどっています。医療危機が迫り、もはや在宅医療・介護業務にも支障を来しているのです。

この不況下において経済的な問題が生じ、医療介護費の本人負担も困難になりつつあります。また不況は日常周辺にも起こっています。巣ごもりや在宅勤務、ウェブ会議など外出を控える生活となり、外食産業を中心に飲食物を提供するサービス業へのニーズが著しく低下しています。それに追い打ちをかけるよ

うに、庶民の足であるタクシーの台数までもが激減し、夜間の営業も減りつつあります。そのため、夜間に発熱や体調異常などの症状が出た場合、自家用車がなければ生命に危険を及ぼす事態がすでに生じているのです(救急対応は特別な場合に限られるため)。

社会保障の専門集団である私たちに課せられた業務は重大だと思っています。そしてその思いは日々ますます強くなり、核心となり哲学となりつつあるのです。

これから生き延びる手段は哲学と哲学の戦いである

大阪市立大学の斎藤幸平准教授の「脱エネルギー論」は、考察のみで実践面で弱く、どうすればいいのか不明です。私たちが四次元の世界において生き延びる手段は「愛と叡智を矜持とす」の哲学で現状を打開することです。ここでの叡智とは「地球は生きている」から始まり、その復活を誓うことです。

- 1.(空間)私たちはVR空間、四次元の世界で生きている
- 2.(哲学)A 四次元で生き延びるための哲学の構築が必要
B いずれにしても「愛と叡智を矜持とす」とすべきである
- 3.(時間)時代は指数関数的に激変し、機を失うと崩壊する
- 4.(バランス・納得・実践行動)これが必要である

どんなに苦しく、辛く、わびしい夜も必ず朝は来ます。そうです、朝の来ない夜はないのです。祈り、そして復活を誓う。新たなコロナ禍不況・災害の時代を生き抜く哲学の構築で、夢のある未来が待っているのです。

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉

人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)
現場の人たちを救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



医療法人 東西会グループ

外来診療 (かかりつけ医) **内科** 要予約
内科・外科・麻酔科・ペインクリニック内科
(医師/薬村 歩)

お医者さんが来てくれる! 24時間・365日体制で対応 (松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 22名
(令和3年5月現在)

末期がん治療 (緩和ケア) 相談室開設!



(医)東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」
三世の「絆」を表すキャラクターです。
イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

国立愛媛大学附属病院臨床研究協力機関
大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
<http://www.touzaiikai.jp/>